

## 1 . 日本語教育部門

一橋大学における日本語教育は大きく5つに分類することができる。第1は、文部科学省国費研究留学生に対する日本語の予備教育を中心とする「日本語研修コース」である。第2は「全学共通教育科目としての日本語科目」、第3は「学部教育科目としての日本語科目」、第4は「大学院科目」、そして、第5は「春季・秋季集中日本語コース」である。第1と第5を除いてこれらの日本語のコースはすべて単位が認定される科目となっており、本学の日本語教育における一つの特徴となっている。また、後掲の表にあるように、日本語担当教員が各学部や研究科と連携をとりながら、センターや学部の枠にとらわれず、講義を担当していることもその特徴として挙げることができる。

### 1 日本語研修コース

#### コースの概要

このコースは、文部科学省国費研究留学生のうちで日本語の予備教育を必要とする者（「日本語研修生」と呼ばれる）を主な対象とする。渡日時以前に日本語学習歴のない者から初中級レベルにある留学生がこのコースを受講し、半年間の日本語学習の後、本学の研究生、あるいは、大学院生となる。日本語研修生以外に、大学推薦の国費留学生、交流協定大学からの派遣学生、あるいは私費の留学生がこのコースに参加することもある。

このコースの日本語学習の目標は、学内外の日常生活に必要な日本語運用能力を獲得すること、および、それぞれ学生の専門の勉学・研究活動に必要な日本語力の基礎を構築することである。本学は社会科学系の大学であり、商学、経済学、法学、社会学の各分野に進む留学生を迎えている。このコースの中級以降では学生個々の専門に対応した専門日本語教育の展開が模索されている。

16週間の集中コース修了後には、それに接続した日本語学習のクラスが「春季・秋季集中日本語コース」および、学部の科目（「全学共通教育科目」（2003年度までの名称は「教養教育科目」）「学部教育科目」）の中に準備されている。例えば、学習歴を全くもたずに日本語研修コースに参加した学生の場合、16週間の集中コースの後、3週間の「春季・秋季集中日本語コース」内の、日本語初級終了レベルに合わせた、中級への橋渡しクラスで学習を継続する。さらに「春季・秋季集中日本語コース」を修了した学生には、次学期に「全学共通教育科目」「学部教育科目」内に、そのレベルに合った日本語クラスが用意されており、日本語学習がスムーズに継続されるよう配慮がなされている。

日本語教育のほか、異文化理解・適応に焦点を当てた授業科目として「異文化体験ゼミナール」が開講され（木曜午後2コマ。97年度は「異文化発見ゼミナール」として、98年度から2002年度までは「日本の社会と文化」として、それぞれ開講）、日本の社会と文化を理解するための講義・工場見学・中学校訪問・伝統文化鑑賞など多彩な活動が展開されている。

各学期報告

第14期 (2003年4月コース 2003年4月～2003年9月)

7か国から11名の留学生が参加。3クラス編成。4名を初級クラスに、4名を初中級レベルのクラスに、3名を中上級レベルのクラスとした。

日本語教育担当教員は3名の専任教員、及び5名の非常勤講師(田中久美子、福岡理恵子、北岡幹子、高橋美和子、中川まち子、)(敬称略)である。

主な教材：『初級日本語』(東京外国語大学留学生日本語教育センター) 『毎日の聞きとり 50日 初級編』(宮城ほか) 『Basic Kanji Book 基本漢字 500 (Vol. 1、Vol. 2)』(加納ほか) 『J-Bridge』(小山) 『わくわく文法リスニング 99』(小林ほか) 『毎日の聞きとり 50日 中級編』(宮城ほか)

第14期生名簿

氏名	性別	国籍	修了後配置先
Jongjitsamran, Suwimon	F	タイ	商学研究科
Tran, Anh Thi	F	ベトナム	商学研究科
Nguyen, Hai Thuong Hoang	M	ベトナム	商学研究科
Nguyen, Yen, Hong	F	ベトナム	経済学研究科
Rysin, Evgeni	M	イスラエル	法学研究科
Quiros, Margarita	F	コロンビア	経済学研究科
Van Schaik, Dimitri	M	オランダ	経済学研究科
Lendvai, Marton	M	ハンガリー	経済学研究科
Wendt, Andrea*	F	ドイツ	商学部
Ziegler, Helmut*	M	ドイツ	商学部
Verheij, Esther*	F	オランダ	経済学部

\* 交流学生

1. 日本語教育部門

第14期時間割

月	A	初級文型・語彙 (田中)	初級文型・語彙 (田中)	初級文型・文字 (西谷)	初級文型・作文 (西谷)
	B	初中級文型 (福岡)	初中級聴解 (福岡)	- - -	- - -
	C	- - -	日本語選択・文法 (三枝)	日本語上級・前 (石黒)	- - -
火	A	初級文型・語彙 (北岡)	初級文型・語彙 (北岡)	初級漢字・聴解 (高橋)	初級文型復習 (高橋)
	B	初中級文型 (福岡)	初中級聴解 (福岡)	初中級・漢字 (鶴田)	- - -
	C	- - -	日本語選択・文法 (三枝)	日本語中級・後 (三枝)	- - -
水	A	初級文型・語彙 (西谷)	初級文型・作文 (西谷)	- - -	- - -
	B	- - -	- - -	- - -	- - -
	C	- - -	翻訳 (鶴田)	日本語選択・速読 (中川)	日本語選択・口頭表現 (梅岡)
木	A	初級文型・語彙 (北岡)	初級文型・語彙 (北岡)	異文化体験 ゼミナール (中本)	異文化体験ゼミナール (中本)
	B	初中級文型 (中川)	初中級聴解 (中川)		
	C	- - -	- - -	日本語上級・前 (石黒)	
金	A	初級文型・語彙 (田中)	初級文型・語彙 (田中)	初級漢字 (高橋)	初級文型復習 (高橋)
	B	初中級文型 (鶴田)	初中級聴解 (三枝)	初中級・漢字 (鶴田)	- - -
	C	- - -	- - -	日本語中級・後 (三枝)	- - -

第15期 (2003年10月コース 2003年10月~2004年3月)

6か国から6名の留学生に加えて1名の研究員が参加。2クラス編成。日本語教育担当教員は4名の専任教員、及び5名の非常勤講師(田中久美子、福岡理恵子、高橋美和子、中川まち子、北岡幹子)(敬称略)である。

主な教材:『初級日本語』(東京外国語大学留学生日本語教育センター)、『毎日の聞きとり plus40』(宮城ほか)、『中級の日本語』(三浦・マグローイン花岡)、『Basic Kanji Book 基本漢字 500 (Vol.1、Vol.2)』(加納ほか)、『ニューアプローチ中級日本語 基礎編 改訂版』(小柳)

第15期生名簿

氏名	性別	国籍	修了後配置先
Nopprach, Somsupa	F	タイ	経済学研究科
Rakhmankulova, Nozima Mir-Akbarovna*	F	ウズベキスタン	経済学研究科
Nora Kottmann**	F	ドイツ	社会学部
McCullum, Claire Elise**	F	連合王国	商学部
Lavado, Rouselle***	F	フィリピン	国際企業戦略研究科
Lee Jeongeun (李定垠)****	F	大韓民国	法学研究科
Kang Jeongsook (姜貞淑)*****	F	大韓民国	

\*大学推薦国費留学生 \*\*交流学生 \*\*\*大学院生 \*\*\*\*外国人研究生 \*\*\*\*\*客員研究員

1 . 日本語教育部門

第15期時間割

月	A	初級・文型語彙 (田中)	初級・文型語彙 (田中)	初級・会話聴解 (石黒)	初級・文字 (石黒)
	C	初中級・文型語彙 (福岡)	初中級・会話 (福岡)	- - -	日本語選択・ 漢字 CAI(庵)
火	A	初級・文型語彙 (北岡)	初級・文型語彙 (北岡)	初級・会話聴解 (高橋)	初級・文字 (高橋)
	C	初中級・文型語彙 (福岡)	初中級・会話 (福岡)	初中級・作文 (鶴田)	初中級・翻訳1 (鶴田)
				初中級・読解2 (今村)	
水	A	初級・表現作文 (石黒)	初級・表現作文 (石黒)	- - -	- - -
	C	初中級・読解1 (鶴田)	初中級・漢字 (鶴田)	- - -	- - -
		専門日本語(経済 学・商学分野) (庵)	専門日本語(法学・ 社会学分野) (庵)		
木	A	初級・文型語彙 (北岡)	初級・文型語彙 (北岡)	異文化体験ゼミナール (中本)	
	C	初中級・聴解・ 会話1(中川)	初中級・聴解・ 会話2(中川)		
		日本のビジネス 文化(太田)			
金	A	初級・文型語彙 (田中)	初級・文型語彙 (田中)	初級・会話聴解 (高橋)	初級・文字 (高橋)
	C	- - -	初中級・翻訳2 (鶴田)	社会科学のこぼ (今村)	- - -

## 2 全学共通教育科目としての日本語科目

全学共通教育科目として開講される日本語関係科目は多岐にわたる。2003年度は、年間延べ科目数で24、ゼミスターごとの延べコマ数で50コマ(1コマ=90分授業が週に1回で、2単位に相当)になる。以下に各科目の担当者、コマ数、対象(特に明記しない限り留学生を対象とする)、内容、総時間数などを表にして記す。

### 2-1 日本語・日本事情科目

「日本語A」と「日本語B」は学部1年生の留学生のためのクラスで、「一般日本事情」及び「一般日本事情」は主に学部1・2年生の留学生を対象としている。この4科目が狭義の「日本語・日本事情科目」と呼ばれるものである。

表1：日本語・日本事情科目

科目(担当者)	コマ数	対象	授業内容・到達目標	時期・時間数
日本語A(松岡、西谷)	2コマ /週	学部1年生	社会科学の勉学に必要な日本語能力を総合的に養成。特に教科書等を正確に読みこなし、講義を聞いて理解する訓練をする。	夏学期開講 60時間
日本語B(五味、鶴田)	2コマ /週	上に同じ	「日本語A」に続いて高度な日本語能力を養成する。	冬学期開講 60時間
一般日本事情(松岡)	1コマ /週	主に学部1,2年生	日本人が常識として知っている歴史的知識や事柄の中から、話題性のあるもの、日常生活に必要なものを取り上げる。	夏学期開講 30時間
一般日本事情(五味)	1コマ /週	上に同じ	現代日本に焦点を絞り、現代日本社会の理解に役立つ歴史的な事柄を扱う。	冬学期開講 30時間

### 2-2 全留学生対象の日本語科目

表2・表3に掲げる科目は、単位取得が可能な正規科目として、交流学生(交流協定校からの1年の短期留学生)、研究生(日本語研修コース修了生を含む)、日本語日本文化研修生(略称「日研生」)、学部1・2年生、大学院正規生など、全カテゴリーの留学生が各自のレベルとニーズに応じて履修できるものである。

このうち、「日本語中級・中」から「日本語上級・後」の4科目は、レベル別の「基本科目」、それ以外は技能別の「選択科目」である。クラス編成はプレースメント・テストの結果、学習者それぞれのニーズ等によって決められる。2003年度は、「日本語選択・速読」が新設された。なお、2003年度の非常勤講師は、梅岡巳香、中川まち子、金井勇人の3氏であった。

## 1. 日本語教育部門

表2：基本科目

科目(担当者)	コマ数	対象	授業内容・到達目標	時期・時間数
日本語中級・後 (三枝)	2コマ /週	主に交流学生、研究生	教科書に沿って中級後期レベルの文法・漢字・語彙をマスターし、視聴覚教材を利用しながら読解力や聴解力を向上させる。	夏と冬に並行開講 各60時間
日本語上級・前 (夏:石黒、冬:西谷)	2コマ /週	上に同じ	教科書や視聴覚教材を利用しながら上級前半レベルの文法・漢字・語彙をマスターし、読解力や聴解力を向上させる。	夏と冬に並行開講 各60時間
日本語上級・後 (五味)	1コマ /週	主に交流学生、研究生、学部1,2年生	教科書や新聞、社会科学分野の文献などを利用して、上級後半レベルの文法・漢字・語彙をマスターし、読解力や聴解力、議論の技術を向上させる。	夏と冬に並行開講 各30時間

表3：選択科目

科目(担当者)	コマ数	対象	授業内容・到達目標	時期・時間数
日本語選択・文章表現 (夏:鶴田、冬:三枝)	1コマ /週	主に交流学生、研究生(中級)	社会科学系の論文を書く際に必要な基本的文型や表現・語彙を習得し、論理的な文章をふさわしい文体で書けるようにする。	夏と冬に並行開講 各30時間
日本語選択・文章表現 (金井)	1コマ /週	主に交流学生、研究生	説得力ある文章を書くための論文構成の技術を習得するとともに分かりやすく簡潔な要約の訓練をする。	夏と冬に並行開講 各30時間
日本語選択・文章表現 (石黒)	1コマ /週	主に交流学生、研究生、学部1,2年生(上級)	文体、文章構成などについてともに議論することを通して、論文を書くのに必要な文章表現技術を身につける。	夏と冬に並行開講 各30時間
日本語選択・文法 (夏:西谷、冬:三枝)	1コマ /週	主に交流学生、研究生(中級)	中級レベルの文法力を確実なものにする。	夏と冬に並行開講 各30時間
日本語選択・文法 (夏:三枝、冬:庵)	1コマ /週	主に交流学生、研究生(上級)	中・上級レベルの文法力を確実なものにする。	夏と冬に並行開講 各30時間
日本語選択・口頭表現 (梅岡)	1コマ /週	主に交流学生、研究生(中級中)	大学生活で自然な日本語が使えるようにする。中級中期レベルの運用能力をつける。	夏と冬に並行開講 各30時間
日本語選択・口頭表現 (梅岡)	1コマ /週	主に交流学生、研究生(中級後)	大学生活で自然な日本語が使えるようにする。中級後期レベルの運用能力をつける。	夏と冬に並行開講 各30時間
日本語選択・口頭表現 (金井)	1コマ /週	主に交流学生、研究生(上級後)、学部1,2年生(上級)	大学生活に必要なプレゼンテーション・スキルなど高度なコミュニケーション・スキルを養成する。	夏と冬に並行開講 各30時間
日本語選択・漢字 CAI (夏:石黒、冬:庵)	1コマ /週	主に交流学生、研究生(中級)	コンピュータを用いて、新聞等に頻出する漢字を学習し、中級漢字の読み能力を向上させる。	夏と冬に並行開講 各30時間
日本語選択・翻訳 (夏:鶴田)	1コマ /週	交流学生、研究生、学部1,2年生(上級)	主に社会科学系の英語文献を日本語に翻訳する作業を通じて、日本語力を伸ばす。	夏学期開講 30時間
日本語選択・中級読解 (中川)	1コマ /週	主に交流学生、研究生(中級)	社会・人文科学分野の平易な学術論文を読み、社会・人文科学分野の基本概念に触れる。	夏と冬に並行開講 各30時間

日本語選択・速読 (中川)	1コマ /週	主に学部1,2 年生、交流学 生(上級)	社会・人文科学分野の学術論文や 新聞・雑誌などで、生の日本語を 読み進む能力を養成する。	夏と冬に並行開 講 各30時間
日本語選択・上級読解 (松岡)	1コマ /週	主に学部2年 生(上級)	社会・人文科学分野の学術論文を 読み、その分野の基本概念や文語 的表現に習熟させる。	夏と冬に並行開 講 各30時間
日本語選択・社会科学の 基礎語彙(夏:西谷、 石黒 冬:五味、今村)	2コマ /週	主に交流学 生、研究生 (中級)	社会科学の各分野の勉学・研究に 必要な基礎語彙をテキストやプ リントを用いて学ぶ。	夏と冬に並行開 講 各60時間

### 2-3 学部の日本語関係科目(全学生対象)

「現代日本語論」「現代日本語論」は、留学生を含む、学部生一般を対象とした全学共通教育科目であり、「学部ゼミ:現代日本語」は社会学部3年生と日本語日本文化研修生を対象とした科目である。

表4:学部の日本語関係科目(全学生対象)

科目(担当者)	コマ数	対象	授業内容・到達目標	時期・時間数
現代日本語論 (石黒)	1コマ /週	留学生を含む 学部1,2年生	表記、表現選択、文章構成などにつ いて提出された課題をもとに検討す ることを通して、文章技術のさらなる向上 を目指す。	夏学期開講 30時間
現代日本語論 (西谷)	1コマ /週	上に同じ	日本語教育の基礎を学び、日本語初級 教育を体験する。	冬学期開講 30時間
学部ゼミ:現代日 本語 (松岡)	1コマ /週	学部3年生と 日研生	日本語、日本文化に関する基本文献を 講読する。	通年開講 60時間

### 3 学部教育科目としての日本語科目

学部教育の枠組みでは、経済学部において「経済の日本語」(各週1コマ)、社会学部において「社会・人文の日本語」、「社会・人文の日本語」(夏学期・冬学期にそれぞれ週1コマ)が開講されている。いずれも経済学部、社会学部における留学生の専門日本語能力の向上を図るために開設されているが、他学部の研究生、交流学生、日研生も履修することができる。

表5:学部教育科目

科目(担当者)	コマ数	対象	授業内容・到達目標	時期・時間数
経済の日本語 (西谷)	2コマ /週	主に経済学部 の交流学生、研 究生(中級)	経済学を中心とする社会科学の分野で 使われる語彙・表現をテキストを用いて 学習するほか、日本経済新聞などの記事 を講読し、テレビニュースを視聴する。	夏と冬に並行 開講 各30時間
経済の日本語 (夏:五味、冬: 今村)	1コマ /週	主に経済学部 の学部生、交流 学生、研究生 (上級)	主に経済学の分野で用いられる語彙・表 現を学習する。日本語能力試験1級受験 レベルの日本語力が望ましい。	夏と冬に並行 開講 各30時間



## 1. 日本語教育部門

法言語文化論 (夏：三枝)	1コマ /週	主に法学部の 学生、交流学 生、研究生(上 級)	『判例で学ぶ日本の法律』(一橋大学留 学生センター)をテキストに、法律や法 律学に関する文章を読みこなす力をつ ける訓練をする。	夏学期開講 30時間
社会・人文の日本 語 (冬：河野)	1コマ /週	学部の1,2年 生、交流学生、 日研究生、研究生	「社会・人文の日本語」の内容をさら に深める。	冬学期開講 30時間

### 4 大学院科目

「経済専門文献日本語」が経済学研究科、「法言語文化論」が法学研究科、「総合社会科学  
専門日本語」「総合社会科学日本事情」「文化生成研究」が社会学研究科、「専門日本語表現技  
法」が言語社会研究科で開講されている。科目によっては、留学生に限定せず、日本  
語を母語とする学生にも開講されている。

表6：大学院科目

科目(担当者)	コマ数	対象	授業内容・到達目標	時期・時間数
経済専門文献日本 語 (今村)	1コマ /週	主に経済学研 究科の修士、 博士課程の学 生	経済専門文献日本語の理解における落 とし穴に目を向け、言語表現に表れる 筆者の視点や立場を読みとる。同時に 論文執筆、発表の技術も指導する。	冬学期開講 30時間
法言語文化論 (三枝)	1コマ /週	主に法学研究 科の修士、博 士課程の学生 (日本語を母 語とする学生 を含む)	憲法を一つの手がかりとして、日本人 の思想・行動をいくつかの国と比較し ながら考える。	冬学期開講 30時間
総合社会科学専門 日本語 (松岡)	1コマ /週	主に社会学研 究科と言語社 会研究科の修 士、博士課程 の学生	近代の日本語の文章を文法的に正確に 読み解く練習を行う。文語文法の基礎 と歴史的仮名遣いを概観し『日本近代 思想体系』の文章、あるいは受講生の 専門分野から文章を抜粋して読む。	夏学期開講 30時間
総合社会科学 日本事情 (河野)	1コマ /週	主に修士1年 生	戦後の日本人論、日本文化論の著作を 複数講読し、その内容を自分の身近な 問題として検討する。授業参加者に自 分なりの「日本人論」を構築してもら う。	夏学期開講 30時間
文化生成研究 (松岡)	1コマ /週	主に社会学研 究科と言語社 会研究科の学 生(日本語を 母語とする学 生を含む)	「山田孝雄の文法論」の題目の下で、 『日本文法論』を講読する。	冬学期開講 30時間
専門日本語 表現技法 (鶴田)	1コマ /週	主に言語社会 研究科の学生	文章表現と口頭表現の基本的特徴を押 さえる。	夏学期開講 30時間
専門日本語 表現技法 (鶴田)	1コマ /週	主に言語社会 研究科の学生	学術的文章の特徴に習熟するための訓 練を行う。	夏学期開講 30時間 (集中講義)

5 補講としての日本語 (春季・秋季集中日本語コース)

正規のカリキュラム外に開講されるもので、単位の認定は行われない。2002年度は9月と3月に3週間の集中コースが開かれた。対象者は、センターの日本語研修生や渡日直後の交流学生、日本語能力向上を目指す在學生で、そのクラス編成、担当者、内容、使用教材は以下の通りである。

表7：2003年度秋季日本語集中コース(2003年9月2日～19日、全65時間)担当：石黒、中川

クラス(担当者)	内容・目標	使用教材
Aクラス (北岡、関)	初級文法・漢字・語彙を確認しながら聴解力の向上を目指し、中級文法への橋渡しをする。	・『みんなの日本語』スリーエーネットワーク ・『楽しく聞こう』文化外国語専門学校
Bクラス (高橋、田中)	中級前期学習者の読解力・漢字運用力・聴解力・会話力の向上・語彙力強化を目指す。	・『J-Bridge』凡人社
Cクラス (梅岡、金井)	中級後期の学習者を対象に、アカデミックジャパニーズの運用力を高め、中級から上級への橋渡しをする。	・『大学・大学院留学生の日本語 読解編』アルク等
Dクラス (藤田、三角)	高度な内容の時事問題について読解、討論および文章作成を行う。	・『日本の論点 2003』文藝春秋社 ・『留学生のための論理的な文章の書き方』スリーエーネットワーク
翻訳クラス (中川、福原)	上級学習者が経済学・商学に関する英文を日本語に翻訳する力を伸ばす。	・各研究科の過去入学試験問題等

なお、翻訳クラスは9月2日～18日の12日間であった。

表8：2003年度春季日本語集中コース(2004年3月2日～19日、全70時間)担当：西谷、中川

クラス(担当者)	内容・目標	使用教材
Aクラス (高橋、北岡)	初級文法・漢字・語彙を確認しながら聴解力の向上を目指し、中級文法への橋渡しをする。	・『ニューアプローチ中級日本語基礎編』日本語研究社
Bクラス (中川、田中)	初級文法・漢字・語彙を確認しながら聴解力の向上を目指し、中級文法へと橋渡しする。	・『ニューアプローチ中級日本語基礎編』日本語研究社
Cクラス (梅岡、金井)	中級後期～上級前期学習者の聴解力・会話力の向上を目指す。	・『中級から上級への日本語』Japan Times
Dクラス (三角、藤田)	高度な内容の時事問題について読解及び討論を行う。なお、コース中の2日間、土山信人氏によるディベート講習が行われた。	・新聞記事等

(鶴田庸子、三枝令子)